

# 最近の宇宙分野の国際動向について

参考資料2



## 日豪首脳会談（2018年1月18日）

### <安全保障及び防衛協力>

- 両首脳は、宇宙、テロ及び暴力的過激主義対策、不拡散、軍縮並びに拡散対抗の分野における協力を強化するとの意図を確認した。



### <経済関係>

- 両首脳はまた、日本の準天頂衛星に関する協力及び革新的技術分野における複数の具体的プロジェクトの形成を歓迎した。



## ペンス米国副大統領による安倍総理大臣表敬（2018年2月7日）

- 両者は、安全保障、産業、科学技術を含む包括的な宇宙協力の強化を確認しました。



# 米国予算教書FY2019 NASA予算要求概要

## NASA発表の予算要求

総額	198.9(195.2)
深宇宙探査システム	45.6(42.2)
探査研究・技術	10.0(8.2)
低軌道・宇宙運用	46.2(48.5)
科学	59.0(57.3)
航空研究	6.3(6.6)
教育	0(1.0)
安全・セキュリティ	27.5(27.5)
建築及び環境	3.9(3.6)
監察総監	0.4(0.4)

(括弧内はFY2018継続予算\*(単位:億ドル))

◆ FY2019のNASA予算要求総額は198.92億ドル。

◆ FY2018要求額より8億ドル増(4.2%)、FY2018年度継続予算より3.7億ドル増(1.9%)。

\*FY2018歳出法が未成立のため、比較としてFY2018継続予算(FY2017歳出法承認額とほぼ同水準)が用いられている。

(参考:他機関の民事宇宙関連予算)

・ NOAA(NESDIS):16億ドル(FY2018継続予算比25%減)

・ USGS(全体):8.6億ドル(FY2018継続予算比20.2%減)

## 要求のポイント

- ① 有人月探査、その先の火星探査につながるミッションに注力するため、予算項目を大幅見直し
  - ◆ 「探査」→「深宇宙探査システム」に名称変更
  - ◆ 「探査研究・開発」→「発展型探査システム(AES:Advanced Exploration Systems)」に置き換え  
居住モジュール、月周回プラットフォームはAES、その他は「探査研究・技術」に組み込まれた
  - ◆ 「宇宙技術」→「探査研究・技術(ERT:Exploration Research and Technology)」に置き換え  
従来の「探査研究・開発」で行っていた有人研究もERTに組み込まれた。
  - ◆ 「宇宙運用」→「低軌道・宇宙運用(LEO and Space Flight Operations)」と名称変更  
新たに商業LEO開発(Commercial LEO Development)を追加。
- ② Deep Space GatewayをLunar Orbital Platform-Gatewayと改称し、正式に探査ミッションとして実施。
- ③ 探査関連の予算に全体予算の半分以上の105億ドルを割り当て。ISSへの政府直接拠出をFY2025年までとし、代わりに商業LEO開発によりISS商業化を促進(商業LEO開発の促進に新規に1.5億ドルを要求)
- ④ 地球観測衛星(PACE, OCO-3, CLARREO, Pathfinder, DSCOVR, RBI)についてはキャンセル。